

第 29 期放射線安全取扱部会 支部長，委員長ご挨拶

北海道支部長に就任して

久下 裕司

このたび，稲波修 前支部長（北海道大学大学院獣医学研究科）の後を受けて，第 29 期の北海道支部長を務めさせていただくこととなりました久下と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は，学生時代より放射性医薬品の研究開発や医薬品の体内動態研究などを通じて，放射性同位元素や放射線と深く関わってきました。一方で，放射線の安全管理に本格的に関わったのは，2009 年に北海道大学アイソトープ総合センターに就任して以来で，まだまだ経験不足が否めない状況です。しかしながら幸いなことに，支部委員には，任期満了となった稲波前支部長以外は，全員に継続して就任していただくことができました。第 29 期の支部は，安原優子氏（北海道大学農学部），大内健司氏（北海道電力（株）），遠藤大二氏（酪農学園大学獣医学部）に，新たに若い力，吉井勇治氏（札幌医科大学）を迎え，私を加えた合計 5 名で運営してまいります。

北海道支部の今後の活動としては，これまでの諸先輩方が築いてこられた実績を継承し発展させることを考えています。具体的には，春の教育訓練講習会や放射線利用施設等の見学会・研修会を継続して開催するとともに，日本原子力学会北海道支部主催の“原子力オープンスクール”や，北海道地区放射線施設協議会の研究会を共催する予定にしています。このような活動を通して，放射線を取り扱う皆様に，必要な情報を発信し，アイソトープの安全な利用に貢献していきたいと願っています。一方で，北海道支部は，地域は広いにもかかわらず，放射線



（左より）安原，吉井，久下，大内，遠藤各委員

関連施設や会員数は少ないことから，会員の交流や情報交換の難しさも指摘されています。このような問題点を解決するためには，魅力的なプログラムを提供し，また新しい試みを取り入れていくことが欠かせません。皆様のお知恵を拝借し，魅力的なプログラムの開発や新しいことへのチャレンジにも力を注いでいきたいと思っています。

皆様には，これまでも増したご指導とご支援を賜りますよう，よろしくお願い申し上げます。

（北海道大学アイソトープ総合センター）

東北支部長に就任して

渡部 浩司

第 28 期に引き続き第 29 期の東北支部支部長を拝命いたしました東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンターの渡部です。よろしくお願いいたします。委員は再任の阿部養悦氏（東北大学病院），河津賢澄氏（福島大学），森山竜也氏（日本原燃

主任者 コーナー



(前列左より) 福島, 渡部, 穴戸
(後列左より) 阿部, 河津, 森山各委員

(株)), 福島美智子氏(石巻専修大学)に加え, 坂根正一氏(日立アロカメディカル(株))の後任として, 穴戸文男氏(東北放射線科学センター)を新たにお願いすることになりました。

前期の2年間は, 右も左も分からないまま, これまでの支部活動を継続するだけで精一杯でしたが, 皆様のご支援のおかげで, さまざまな経験をさせていただきました。私自身が大いに勉強させていただきました。今期は, これまでどおりの, 教育訓練講習会, 放射線管理実務セミナーの活動に力を入れていくことに加え, 新たな試みを積極的に進めていきたいと考えております。昨年から始めた中学校の教員向けの放射線教育講習会は今年も行う予定です。本講習会で, 放射線教育を面白いと感じていただいた先生が授業で放射線を取り上げ, その授業を受けた中学生が放射線に興味を持って, 将来, 放射線に携わる仕事に就いていただければと考えております。ずいぶん気の長い話ですが, 放射線を取り扱う環境は今後ますます厳しくなることが予想され, 今から種を蒔いておく必要性を強く感じております。

東北支部は規模が小さいですが, 小さい分, 結束力を発揮できる可能性を秘めています。我々支部委員の活動が, その力を発揮する一助になればと考えております。風通しの良い支部を目指しておりますのでご要望等ございましたら遠慮なくお知らせいた

だければと思います。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

(東北大学サイクロトロン・
ラジオアイソトープセンター)

関東支部長に就任して

井上 浩義

関東支部長を務めさせていただいております慶應義塾大学の井上浩義です。2期目の支部長を拝命し, 多くの支部会員の皆様及び支部委員の皆様に支えて頂いて仕事をさせていただいております。本年度の本支部の使命は, 定常業務である放射線業務従事者のための教育訓練講習会の開催(新規教育3回, 再教育3回)や第1種放射線取扱主任者試験解答例作成などを充実させたものにするのは当然ですが, 何と言っても, 11月に主管開催します年次大会を盛会とすることに尽きます。年次大会は, 平成28年11月10日と11日の2日間, 神奈川県鎌倉市の鎌倉芸術館で開催します。京都・奈良とはまた異なった文化を醸成してきた古都・鎌倉です。会場の鎌倉芸術館は, JR大船駅近くにある落ち着いた雰囲気



(前列左より) 飯塚, 泉, 井上, 五十嵐, 片岡
(後列左より) 佐々木, 溝口, 桧垣, 谷川, 八木各委員
(右上左から) 佐藤, 高橋各委員

の施設です。JR 大船駅は、東京駅から約 40 分、横浜駅から約 15 分です。少し足を伸ばせば、由緒ある神社仏閣があります。また、新しくも懐かしい湘南文化にも触れ合うことができます。関東支部では、この年次大会開催に向けて、支部委員だけでなく、多くの会員が実行委員として登録してくださり、計画・立案から目立たない仕事まで協力してくださっています。日々の仕事が忙しい中、本当に良くとご尽力いただいています。皆、放射線安全取扱部会への愛を感じます！

全国の会員、非会員の皆様、この 11 月は鎌倉で一緒に勉強いたしましょう。

なお、本支部の支部委員は、飯塚裕幸（埼玉医科大学）、五十嵐敏美（東京工業大学）、泉雅子（理化学研究所）、片岡賢英（慶應義塾大学）、佐々木博之（（株）日本環境調査研究所）、佐藤斉（茨城県立医療大学）、高橋克彦（獨協医科大学）、谷川勝至（東京大学）、桧垣正吾（東京大学）、溝口真樹（（株）日立製作所）、八木直樹（新日鐵住金（株））です（五十音順）。

（慶應義塾大学医学部化学教室）

中部支部長に就任して

矢永 誠人

このたび、柴和弘先生（金沢大学学際科学実験センター）の後を受けて、第 29 期の中部支部長を拝命いたしました。

今期の中中部支部は、第 28 期から継続の黒澤俊人（三重大学生命科学研究支援センター）、小島康明（名古屋大学アイソトープ総合センター）、小須田誓（愛知医科大学医学部附属総合医学研究機構）、三嶋淳二郎（（株）日立製作所）の諸先生に加え、新たに伊藤由磨（名古屋市総合リハビリテーションセンター）、三輪美代子（岐阜大学生命科学総合研究支援センター）、森哲也（福井大学高エネルギー医学研究センター）の 3 名の先生が委員に就任され、計



（前列左より）三嶋、矢永、伊藤、三輪
（後列左より）黒澤、小須田、小島、森各委員

8 名の体制でスタートいたしました。

中部支部の定例となっている活動は、春の教育訓練講習会と秋の支部研修会または施設見学会、そして放射線取扱主任者試験の解答例の作成です。昨年は、前支部長の柴先生が実行委員長として中心となって企画された年次大会が金沢市で盛大に開催されましたが、そのメインテーマは「放射能・放射線を正しく発信するには」でありました。情報を正しく発信するということは大変に重要なことです。このことも念頭に置きつつ、定例の活動に加えて事業所への講師の派遣や一般向けの放射線セミナーなども企画していきたいと思っております。

また、近年、話題となっている各事業所における安全文化の構築と品質保証という課題にも積極的に取り組んでいくつもりであります。その活動のためには、皆様のご協力は欠かすことができません。部会員の皆様におかれましては、今後ともご支援をいただきますようお願いいたします。

（静岡大学理学部放射科学研究施設）

近畿支部長に就任して

矢鋪 祐司

このたび、飯田敏行前支部長の後を受けて、第 29 期近畿支部長を拝命いたしました矢鋪祐司です。

主任者 コーナー



(前列左から) 吉岡, 大熊, 矢鋪, 芳原
(後列左から) 角山, 鳥取, 古屋敷, 竹村, 小山, 鈴木各委員

歴代近畿支部長に比して、知識と経験は大きく劣りますが、精一杯頑張って近畿支部及び放射線安全取扱部会の活性化に寄与したいと思っております。

第29期の近畿支部委員会は、前支部委員である大熊浩志氏（日本メジフィジックス(株)）、小山由起子氏（滋賀医科大学）、鈴木健二氏（(株)日本環境調査研究所）、鳥取和孝氏（(株)千代田テクノル）、芳原新也氏（近畿大学）の経験豊かな方々が継続するとともに、竹村貴志氏（ポニー工業(株)）、角山雄一氏（京都大学）、古屋敷守氏（仁泉会MIクリニック）、吉岡潤子氏（大阪大学）の錚々たる面々にも新たに加わっていただきました。

近畿支部は関東支部に次ぐ人数を誇っており、また、支部活動は、例えば「放射線のABC」の編集や各種セミナーの開催などの伝統があり、積極的かつ有機的に行ってまいりました。この遺伝子を引き継いでまいりたいと思います。春季と秋季の放射線業務従事者のため教育訓練講習会、放射線取扱主任者試験問題の解答例作成、部会員のための見学会・研修会等のルーティンの活動以外にも、他支部、分科会、他団体などとのコラボレーションを含め新たな活動・企画も模索しながら支部活動を活性化し、放射線取扱主任者をはじめとする放射線に少なからず関係がある方々の一助となりたいと願っております。

最後に、平成29年度の年次大会は近畿で行う予定になっております。関西らしい面白くユニークな企画をこれから考えてまいりますので、全国からたくさんの方の皆様の参加をお待ちしております。

す。近畿支部へのご支援ご協力を何卒宜しく申し上げます。

（日本たばこ産業(株)）

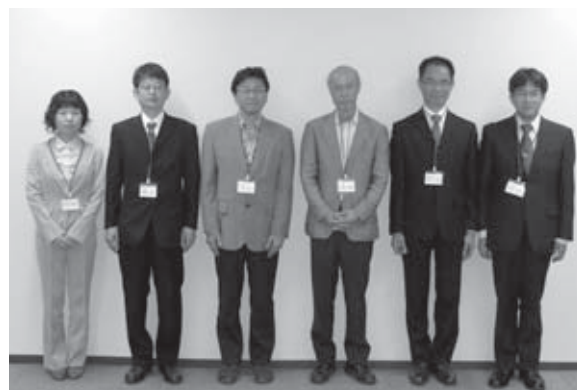
中国・四国支部長に就任して

小野 俊朗

このたび、第28期に引き続き中国・四国支部長を仰せつかりました岡山大学の小野俊朗です。

第29期は2名の委員の退任に伴い、新たに前田志津子氏（広島国際大学）及び都留忍氏（高知大学）が新委員として加わりました。この2氏により支部委員の構成が若くなり、また中国・四国支部の課題であった女性委員の参加も得ることができました。前期からの北実氏（鳥取大学）、三好弘一氏（徳島大学）、稲田晋宣氏（広島大学）を加えた6名の委員で今後2年間の支部活動を行っていきます。

中国・四国支部は中国5県と四国4県で構成されており、企業風土や文化あるいは地域性がかなり異なっています。しかし、これまでの歴代の支部長のご尽力もあり、部会員同士のまとまりがよいことがこの支部の特徴だと思っております。これからも、この伝統を引き継いだ上で、さらに若い支部委員で協力して魅力ある支部活動を行ってまいりたいと思います。部会員の皆様にはこれからもご支援をいた



(左より) 前田, 都留, 三好, 小野, 北, 稲田各委員

だきますよう、お願い申し上げます。
(岡山大学自然生命科学研究支援センター)

九州支部長 2 期目に突入して

杉原 真司

第 28 期に引き続き第 29 期九州支部長を引き受けることになりました。2 期目ともなると、すべて順調にいくかというところでもなく、本稿に掲載する写真を撮り忘れるという不始末から始まりました。最初の教育訓練講習会と支部委員会は順調に終了しています。今期の支部委員構成は、6 名中 5 名が留任で、片平真一氏が退職により澤慎一郎氏（(株)日立製作所）に変わりました。残る 5 名は、年齢順に岡島敏浩氏（佐賀県立九州シンクロトン光研究センター・3 期目）、奥野浩二氏（長崎大学病院・2 期目）、後藤稔男氏（宮崎大学フロンティア科学実験総合センター・2 期目）、川村秀久氏（(一財)九州環境管理協会・2 期目）となりました。次期支部委員候補 2 名の人選をこの 2 年間でやることになりま

す。

九州支部では、昨年度から「次世代主任者育成プロジェクト」を立ち上げ、支部研修会においてパネル討論を実施しました。RI 利用の減少、施設の老朽化、主任者の代替わりなど各放射線施設においては種々の問題が山積しています。遠隔地である九州・沖縄において放射線安全管理に関する情報を、収集・伝承し、施設だけではなく地域の安全・安心に寄与する活動を展開する一つの方法としてこのプロジェクトを位置付け継続していく予定です。早速今年度は、宮崎市において支部研修会「次世代主任者育成プロジェクト（知識の再確認と最新のトピックス）」を実施します。支部委員担当地区会員の積極的な参加を募り、全国の動静を伝えながら次世代主任者の育成とは何かを探る旅です。皆さん奮ってご参加ください。

(九州大学アイソトープ統合安全管理センター)

おもしろく

中島 覚

前期に引き続き第 29 期企画専門委員会委員長を拝命いたしました。前期の活動を振り返ると、面白かった、というのが感想です。企画専門委員会で様々な議論を行い、そのあとも皆で楽しむことができ、活動の活力となりました。加藤真介さん、島崎達也さん、角山雄一さんが勇退されました。これまでありがとうございました。今期のメンバーは、3 期目となる飯本武志さん（東京大学）、高橋郁子さん（名城大学）、2 期目となる小崎完さん（北海道大学）、齋藤美希さん（弘前大学）、中西徹さん（就実大学）、中島、それと今期新たに、馬田敏幸さん（産業医科大学）、垣下典永さん（近畿大学）、久富木志郎さん（首都大学東京）をお迎えし、活動をさらに面白くしたいと思います。

前期は、新たな分科会制度の下、新しい分科会も立ち上がり、活発に活動していただきました。教育



(1 段目) 杉原、(2 段目左より) 岡島、澤、
(3 段目左より) 奥野、後藤 (4 段目) 川村各委員

主任者 コーナー

訓練分科会の中から今期、ワーキンググループが立ち上がり、活動していただくことは、うれしい限りです。今期もこのような展開を進めたいと考えます。また、前期は部会の功労表彰を開始させましたが、今期はこれをより充実したものにしたいと思えますし、併せて若手の表彰についても開始したいと思えます。放射線安全管理に携わる人が報われるような、そして励みになるような仕組みにしたいと思えます。さらに前期には、飯本委員を中心に安全文化についても検討を開始しました。このような検討がきっかけとなり、本年、原子力規制庁の委託事業として放射線安全取扱部会が品質保証制度の導入に向けた規制制度の在り方に関する調査に協力することになりました。

企画専門委員会の任務は、新しい企画を温めて巢立たせる、また放射線安全取扱部会の様々な活動の触媒になることと考えるようになりました。委員会のメンバーで部会の活動を面白くしたいと考えます。ぜひ、今後の活動について各方面よりご助言、ご意見、アイデアなどをお寄せいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

(広島大学自然科学研究支援開発センター)

広報専門委員会委員長を拝命して

池本 祐志

上蓑前委員長の後を引き継ぎ、広報専門委員会委員長を拝命いたしました。放射線の知識も管理の経験も些少な私が委員長をお引き受けして良いものかとずいぶん悩みましたが、自分の未熟さを逆にプラスと捉え、皆様から気楽に声を掛けていただけるフットワークの軽い委員長もあって良いのではないかと思います、このお役目を預からせていただくことといたしました。皆様方には寛容な気持ちで見守っていただけると幸いです。

広報専門委員会は、年に2回、日本アイソトープ協会に集まって委員会を持つほかは、必要に応じて

主にE-mailでのやり取りで打合せを行なっています。今期は、委員会のより良いコミュニケーションのために、情報の受発信の方法を模索してみたいと思っています。加えて、私の数少ない利点の一つである、東京在住という地の利を生かし、一新された事務局との協力・連絡を密にして委員の先生方が活動しやすい環境を作りたいと思います。

広報専門委員会の目的は、「部会活動の対外的な情報発信と部会員相互の情報共有を推進し、部会員の資質向上及び部会の地位向上を図ることを主務とする。」とされており、Isotope News誌の主任者コーナーと主任者ニュース誌の企画・編集を担当しています。今期は、Isotope News誌が月刊から隔月刊に縮小され、Webでの情報提供も充実されつつあります。このように大きく状況が変化する中で、主任者コーナーを魅力あるコミュニケーションの場としてどのように維持・発展させてゆくか、委員会には重要な課題が課せられているものと認識しております。委員の先生方及び事務局の方々と協力して読者の皆様に喜んでいただける活動ができればと思っています。

委員会の活動は、読者の皆様からの積極的な寄稿が原動力となります。引き続き、皆様の温かいご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

広報専門委員会の構成は以下の通りです（敬称略）。

【部会長に転任】上蓑義朋（理化学研究所）

【任期満了】川辺睦（現、原子力規制庁）、鈴木朗史（長瀬ランダウア(株)）

【委員（*は新任）】*安中博之（富士電機(株)）、*大石晃嗣（(株)日本環境調査研究所）、*片岡隆浩（岡山大学）、廣田昌大（信州大学）、藤淵俊王（九州大学）、宮本昌明（神戸大学）、吉田浩子（東北大学）

卒業される先生方、お疲れ様でした。委員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

(日本農薬(株))

法令検討専門委員会委員長を拝命して

梶本 和義

私たちの職場は、放射性同位元素や放射線発生装置の利用があつてはじめての安全管理です。そのため、利用を考えながら、安全取扱に最善を尽くす必要があります。放射線管理の現場では、法令からは十分にくみとれない点での判断を求められることがあります。その際、法令に逸脱しない範囲で放射線取扱主任者の判断、裁量というものが発揮されるものと思います。特に、現場では法令の解釈としてこれでいいのかと悩み自問自答されていることも多々あるかと思うので、その解決に向けてお役に立てることができればと思っています。このため、年次大会では質問コーナーを設け、これまでに様々な相談を受けてきました。これらの回答はQ&Aとして、協会のホームページに掲載されてきましたが、新しいホームページの立ち上げに伴って、前期委員会によって最近の法令改正内容も取り入れて全面的

に整理、統合しました。まとめるに当たって、より見やすくなるように心掛けました。

今期の目標は、現場からの声を集約し、合理的でかつ安全確保のための施策を原子力規制委員会にも提言できるよう、委員会全員で検討を進めてまいりたいと考えております。国の規制は大きく変化しつつあります。管理者や利用者の立場からのご意見も受けながら、法令も改善されるべき点は改善していくことが大事かと思われます。是非、部会員の皆様に支えていただき、積極的な提案や意見を頂きますようお願いする次第です。

【第29期委員】

江田正明（ゼリア新薬工業(株)中央研究所）、加藤真介（横浜薬科大学教育研究センター、新委員）、反保浩一（第一三共(株)品川研究開発センター、新委員）、仁神鉄人（横河電機(株)、新委員）、山田克典（国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構原子力科学研究所）

（高エネルギー加速器研究機構）